

# 新年のごあいさつを 申し上げます

新年 明けましておめでとうございませう。

町民の皆様方には、平成26年新春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

私は、町長就任以来、直面している過疎化・少子化に伴う人口減少への対応を念頭に置き、町政の運営を進めています。

現在、行っております「やまトーク」（みんなの座談会）では、集落営農、農林業の振興、移住定住、防災対策、健康づくり、商工業と観光の振興、社会資本整備などの分野で、私の考え方を話し、併せて、それぞれの地域におけるご意見を頂いています。

自然豊かな環境の中で、健康で安心して「この町に住んでよかった」と思える町づくりを目指し、厳しい財政のなか、あれもこれもという訳にはいきませんが、町民の皆様のご意見をお聞きしながら、優先順位をつけ、効果的な取り組みを行ってまいります。

待望の高速道路の早期整備については、平成30年度に九州中央自動車道が北中島インター（仮称）まで開通することとなりました。矢部インター（仮称）までの区間

新年あけましておめでとうございませう。

町民の皆さまには、新たな決意を持って、新年を迎えられお慶び申し上げます。昨年、国内では、安倍政権の経済政策「アベノミクス」の効果で、景気回復は鮮明になってきたと言われていますが、私たち国民の隅々まで、まだ実感が湧いてこないのが現実です。四月からは、消費税の増税、年金保険料の値上げや、公的年金の受給額の減額など、国民の負担が増え、私たちの生活に不安がよぎりますが、そんな中、2020年の東京五輪、パラリンピックの開催は、私たちに明るい材料を提供してもらいたいと願っています。さて、町では昨年二月に町長選挙が行われ、工藤新町長が誕生し、町民との対話重視ということで、現在、「やまトーク」みんなの座談会が、各自治振興区ごと行われています。ぜひ町民の声を町政に反映していただきたいと思っております。

昨年十月には町議会議員一般選挙が行われ、十四人体制での新たなスタートとなりました。新人四人が当選された中、初めて女性議員が誕生しました。私たち議員は、町民の皆さんの負託に応え、信頼を築く義務があります。



山都町長

工藤 秀一

についても、並行して事業は進められますので、その数年後には開通すると予想しています。このような大きなインフラ整備は、計り知れない効果と可能性を示唆しています。本年は、高速道開通後のメリットを活かす施策を皆様と一緒に考え、取り組んでいくこととします。

また、懸念される「TPPの及ぼす農業への影響」、「国のデフレ対策が地方には実感として伝わっていないこと」、あるいは「消費税増税などに伴う経済の冷え込みが予想される」など、依然として厳しい予測がなされますが、「山都町の豊かな自然環境」や「有機農業に代表される特徴的な農業」、

「住民が支えあう高齢者福祉」、「やさしい子育て環境」をアピールしながら、的確な町政運営を行ってまいります。

本年は、いよいよ新庁舎が完成いたします。その完成に併せて役場の機構改革も段階的に進めてまいります。新庁舎の完成を契機に、さらに職員と一丸となって、そして町民の皆様と共に、この町ならではの魅力的な町づくりを推し進めてまいります。

最後になりましたが、皆様の一層のお力添えを頂きますようお願いいたしますと共に、皆様のご多幸とご健康をお祈り申し上げます。年頭に当たってのご挨拶といたします。



山都町議会議員

中村 一喜男

さて町のシンボルでもある、新庁舎の建設も、昨年の三月着工以来進んでおり、本年中には完成の予定です。町民の皆さまには、長い間不便をおかけいたしましたことが、完成しますれば、町の一体感も進み、まちづくりの礎ができることでしょう。そして、九州中央自動車道も、三月末には、嘉島ジャンクションから小池高山インター間が供用開始になります。平成三十年度には、北中島インター（仮称）まで開通の予定です。また、蘇陽、高千穂間が計画段階評価に入り、今後事業開始に向けて計画がなされるでしょう。こうして町の進歩の環境も整いつつありますので、今後は、人口減少への歯止め、観光振興、少子高齢化に伴う福祉の充実もなされなければなり

ません。町の基幹産業でもありません。町の基幹産業でもありません。町に於いては、TPPや減反廃止などで不安もありますが、準高冷地ならではの農産物の供給も期待されておりますし、木材などの搬出においても、高速道路を利用しての輸送時間の短縮や、経費の削減も考えられます。私たちも夢と希望を持って新しい年を迎え、充実した一年を送ろうではありませんか。

昨年は、国内外で自然災害も多く発生しました。被害にあった多くの人が生活の基盤を失っています。災害に強い国土を造る事もこれからの課題でもあります。本年は、大きな災害がない事を祈り、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心から願ひ、年頭のご挨拶といたします。